

2007年2月25日 Vol.343

MIHARA ANNIVERSARY

3.3%

昨年度、三原市内で100人に3人以上の
中学生が不登校になって悩んだのです。
そして今も…。決して他人事ではないのです。

現代の私たちを取り巻く大きな問題のひとつに教育問題があります。テレビなど諸媒体で頻りに教育問題は取り上げられており、現状を把握している気がしますがそれは全国レベルのことと他人事のように無関心になっていないでしょうか。しかし三原でも教育問題は深刻なのです。三原の教育問題については、子どもがいない方は、なかなか知るすべが無いでしょうし、子どもがいる家庭でも学校任せで興味を持たれてない方もいらっしゃると思います。しかし情報が無いと問題意識は生まれませんし、行動を起こす必要性も感じないのではないのでしょうか。そこで今号ではまず知っていただき、考えて欲しいとの思いから、三原でも深刻な問題のひとつである不登校問題に取り組みされている、ふれあい教室(三原市青少年女性課)の平原室長にお話を伺いました。

※不登校児童生徒とは
文部科学省では、「何らかの心理的、情緒的、身体的あるいは社会的要因・背景により、登校しないあるいはしたくてもできない状況にあるために年間30日以上欠席した者のうち、病気や経済的な理由による者を除いたもの」と定義しています。

ふれあい教室とは？

様々な理由により登校できない児童生徒に対して、集団生活への適応、情緒の安定、基礎学力の補充、基本的生活習慣の改善等のための相談・適応指導を行うことにより、学校や社会的自立を支援するためのものです。また学校・家庭とも連携しており、ここへの出席は学校での出席扱いとなります。また高校生についても相談のみですが対応しております。もともと旧三原市ではユーステレホン・みはら相談室を昭和59年7月18日に開設して電話相談をいち早く開始してきました。その後、適応指導教室を平成4年に開設して不登校児童生徒の支援をしてきており、合併後の新三原市では平成17年4月1日より、これらを引き継ぎふれあい教室として新たにスタートしました。



ふれあい教室
平原室長

不登校の理由は？

主な理由としては、いじめ、勉強についていけない、家庭問題、本人の性格また精神上の問題など様々な問題が原因で不登校になります。単独の原因であればその問題を取り除くことで解決できるのですが、最近の傾向としては原因が複合的にいくつも重なり合っており、容易に解決できないのです。時間もかかりますし対応をマニュアル化することも出来ません。例えば登校を強制することで社会的自立できる場合もありますが、一方で登校させない方が良い場合も見受けられます。

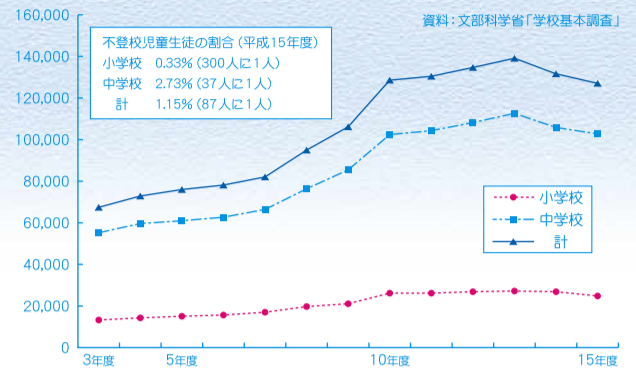
活動と連携は？

学力向上のための学習支援と自信の回復や集団適応能力の向上を目的とした体験的な活動の大きく分けて2本の柱があります。それを毎日の授業や諸活動を通して行うだけでなく、遠足や合宿等を実施してそれぞれに対応しています。主に4名の校長経験者が今までの経験を活かし2名一組になり取り組んでいます。しかしながら不登校問題は複雑かつ多様で、ふれあい教室のみで解決できるものではありません。現在学校・地域とも連携をとり、ふれあい教室は学習支援、体験活動、保護者との懇談をし、学校は不登校に陥らないように校内指導の確立また心のサポートをし、地域としては民生児童委員や県立広島大学の協力をいただいております。特に県立大学の学生にはボランティアで手伝ってもらったりしていますが、年齢が近いこともあり、良い関係が速く築ける場合もあるようです。

不登校の児童生徒はどの位いるのでしょうか？

三原市内では昨年度(H17年度)末には、中学校では85名(約3.3%)、小学校では18名(約0.36%)の不登校が確認されております。特に精神的にも肉体的にも発達してくる中学生で深刻化しております。その中でふれあい教室に通学していた児童生徒は24名おり、不登校の児童生徒のうち約4分の1がふれあい教室に入室していたこととなります。また、その中から昨年度は11名が卒業し、社会的自立を目指して頑張っております。

全国不登校児童生徒の推移



JCに期待することは？

不登校児童生徒には共通した原因はないので、地道に対応してゆくしか解決策はありません。この問題は深刻で、それはすべての子どもたちにも可能性があり、決して他人事ではないことを多くの方に知っていただきたいと思えます。そういった意味でも行動力・認知度・他との連携もあるJCに、ひとりでも多くの方に知っていただくきっかけを作りたいと思えます。またそれは現在悩まれている方にも非常に良いことだと思います。



共育委員会
村上委員長

今回は不登校問題を取り上げましたが、他にも多くの教育問題を抱えており、それらは児童生徒自身のみ問題ではなく、周りの環境(家庭・学校・社会)が大きく関わるものなのです。しかしそれを批判するだけでは何も解決しません。まず自分達が行動を起こさなければならないのです。我々JCとしても様々な立場から検証し、実態を把握して、未来を担ってゆく子どもたちのためにも、ひとつでも多くの問題を解決してゆけるよう取り組んでまいります。今、将来を担ってゆく子どもたちのためには、家庭・学校・地域の共育力が必要なのではないのでしょうか。

を批判するだけでは何も解決しません。まず自分達が行動を起こさなければならないのです。我々JCとしても様々な立場から検証し、実態を把握して、未来を担ってゆく子どもたちのためにも、ひとつでも多くの問題を解決してゆけるよう取り組んでまいります。今、将来を担ってゆく子どもたちのためには、家庭・学校・地域の共育力が必要なのではないのでしょうか。

**どんなことでもかまいません!
皆様の周りにある教育問題を
教えてください!!**

またかきいたか

「モラル=不文律、書き表していない決まり事」とある。つまり法律になっていない、それ以前の人間として守るべき基本的な規則である。◆後を絶たない有名大手企業による度重なる不正。初めは「まさか…」の感が今では「またか…」に変わりつつある。これらの企業は少なからずわれわれ国民に夢と希望

を売り、われわれの生活を便利で豊かにしてくれるハズであった。それが詐欺とも取れるような「ウソ」の連続に、騙されたわれわれは完全に信頼のモノサシを失ってしまった。◆かつては大手の製品にはいわゆる「メーカー品」という安全マークがついていて、威厳にも似た無言の信頼感があった。それがまぼろしとは思いたくないが、曇り空のようにかすんで見え始めた。このこ

とで日本の製品全体の信頼性が危ぶまれることも怖い、もっと恐ろしいのは子どもたちが「偉くなるためにはうまく騙せばいいの？」と勘違いしてしまうことである。◆その疑念はまず身近な「偉い人」に向けられ、教育現場の崩壊はますます進み、やがて日本の将来は…。ありうるシナリオである。大人社会はこのような不正は断固として正すべきである。「嘘がばれたときはこ

うもひどい目にあうのか」という厳しさを子どもたちに教えないければ日本の未来に光はない。◆他人の中で生活せざるを得ない人間社会において「自分さえ良ければ」という考えが、如何に愚かな事に気づかなければ、道徳観の無い法治社会など砂上の楼閣なのである。決してそういう失敗も「あるある」と見過ごしてはならないのだ。